

初の屋台村 笑顔の力で完売!!

笛水夏祭り

今年で17回目を迎える笛水夏祭りが7月21日、笛水小中学校体育館で開催されました。東北大地震の被災地の復興を願い、今回初めて「子供屋台村」を出店。子どもたちは、手作りの綿菓子やうちわを販売して得た収益から義援金を送ろうと、大きな声で呼び込みをしたり、商品の説明をしたりしていました。小学生時代に笛水で過ごしたことのある安川陽斗さん（宮崎市）は「今でも当時の友達と交流しています。笛水はみんな仲良くいいところです」とふるさとの魅力を話していました。



関之尾の悲しい恋の物語

お雪さんの盃流し

約600年前、都城城主が催した宴で粗相し、それを嘆いて滝に身を投げたお雪さん。お雪さんとその恋人の悲しみで滝つぼに杯が浮かんでくるといいうい伝えを再現し、観光PRにつなげようと「お雪さんの盃流し」が7月21日、関之尾滝上流で行われました。お雪さんに扮した頭巾に着物姿の3人が、潜り橋の上からお神酒をささげて杯を流し、お雪さんの悲運を供養しました。梅ヶ谷優紀さん（関之尾町）は「子どもの頃から知っている行事に参加して、緊張しました」と笑顔を見せていました。



もりもり食べて都城を元気に!

みやこんじょ復興盆地グルメ

口蹄疫からの復興と地域の活性化を図ろうと、都城地域地場産業振興センターで7月22日、みやこんじょ復興盆地グルメが開催されました。会場では、都城牛が振る舞われたほか、地元の食材にこだわったチキン南蛮カレー店などが出店。また、雑貨やハンドメイドの店も立ち並び、訪れた人たちは盆地のグルメや買い物などを楽しんでいました。同センターの工藤加奈恵さんは「今回のイベントも盛況で、都城の元気を感ずる。復興へ向けて一步一步、歩みを進めている」と自信を深めていました。



おもてなしの心に感激

環霧島周遊列車おもてなしツアー

吉都線、日豊本線、肥薩線を結ぶ環霧島周遊列車が7月27日、都城駅発着で運行されました。霧島連山を囲む宮崎、鹿児島両県の5市2町で構成する環霧島会議が観光の新たな取り組みとしてJR九州と共同運行した企画に、市内外から約80人が乗車。5カ所の駅で郷土料理が振る舞われるなど、乗客らは地元の歓迎を受け、霧島周辺3路線を結んだ初の企画を満喫していました。桑畑弘徳君（宮崎市）は「列車から見えた都城のお城を夏休みの宿題に描きたい」と車窓からの眺めを楽しんでいました。



盲導犬のお仕事ってどんなこと？

夏休み！点字図書館わくわく塾

視覚障がいや盲導犬への理解を深めてもらおうと「夏休み！点字図書館わくわく塾2012」が7月27日、総合社会福祉センターで開催されました。市内外の小学生や保護者ら40人が参加。クイズ形式で盲導犬について学んだ後、高橋利幸さん（乙房町）と盲導犬ドナが障害物を避けて歩く様子を見たり、参加者も目隠しを付け盲導犬に誘導されたりして、視覚障がいへの理解を深めました。中村美織さん（祝吉小6年）は「盲導犬の役割や盲導犬になれる犬の種類が分かった」と話していました。



夏空の下、子どもたちの熱き戦い

ジュニアアトライアスロン大会

第6回きりしまんちだジュニアアトライアスロン大会が7月29日、高崎総合公園周辺で開催されました。水泳、自転車、長距離走の3種目を一人でこなす個人の部に加え、三人一組でたすきをつなぐ家族リレーの部に、合わせて約160人が出場。選手らは、強烈な日差しが照り付ける夏空の下、体力の限界に挑戦しながら、順位を競い合っていました。友人と参加した小竹山翔星君（南小4年）は「自転車走るのが楽しかった。来年も参加したい」と玉のような汗を拭っていました。



ぼくの考えたプログラム

リレー書道（キッズボンパク）

小学生が都城の魅力を体験できるキッズボンパクが、7月28日から8月26日まで市内各地で行われました。8月5日に都城島津邸で開催されたリレー書道は、昨年のアンケートにリレーで書道をしてみたいと有川春輝君（三股小6年）が提案したことから実現。参加者らは、くじで決まった順番で一人一画ずつを書いて「輝」と「花鳥風月」という文字を完成させていました。初めて企画する側が体験した有川君は「企画する方が大変だけどおもしろかった」と充実した表情を浮かべていました。



平和への思いを新たに

戦没者・空襲犠牲者合同追悼式

都城大空襲のあった8月6日、戦没者・空襲犠牲者合同追悼式が総合文化ホールで行われました。会場には、遺族や関係者など約700人が参列。全員で黙とうをささげた後、遺族代表者らが献花を行い冥福を祈りました。式典で長峯市長は「深い悲しみは永遠に忘れることはない。時は過ぎても語り継いでいきます」と恒久平和への誓いを新たにしました。式典の最後に五十市小学校の6年生73人が、戦争について学んだ成果を平和メッセージとして披露。平和であることの大切さを訴えました。





弓のまち都城の魅力を世界に発信
市立西中学校弓道部

長崎 幸太 君 (3年・後列左)

ひがしうめ けいすけ

東梅 圭祐 君 (3年・後列右)

りょうた

後藤 僚太 君 (2年・前列)



フランスのパリで7月23日に開催された「第1回世界弓道交流演武会」。この演武会で日本発祥の弓道の魅力と素晴らしさを伝えようと、日本オリンピック委員会(JOC)から派遣され演武を披露したのが、市立西中学校弓道部主将の長崎幸太君と東梅圭祐君、後藤僚太君の3人です。

西中弓道部は、昨年8月に東京都で開催された、JOCオリンピックカップ第8回全国中学生弓道大会男子団体の部で見事優勝。この実績を買われ、JOCが日本代表として同大会での演武を西中弓道部に依頼したことを受け、指導者の上野真砂子さん(若葉町)とともに派遣されました。

この演武会は、2014年に開催される世界弓道大会に先立って行われたもので、17カ国から約200人が参加。その中で3人は、弓を持ち膝まずいて矢をつがえ、その場に立ち上がって射る「座射」を披露しました。演武会に向け6月から、顧問の富永和広先生や上野さんの指導の下、厳しい練習を重ねた3人は「演武の瞬間はとても緊張した。観衆からの拍手がうれしかった」と振り返ります。

そんな3人に指導者の上野さんは「弓道は心を鍛え、礼儀作法を

重んじる日本古来の競技。技術の向上はもちろん、後輩に感謝される人に成長してほしい」と指導に熱が入ります。

この夏で弓道部を引退する長崎君と東梅君は「今回の演武会に派遣されたのは、昨年優勝した先輩たちのおかげ。つらいと思うこともあったけど、それを乗り越えたことで今がある。今後も自分を強くしてくれる弓道が続けていきたい」と目標を語っていました。

3年生が引退し、新たにスタートする西中弓道部。決して恵まれた練習環境にはありませんが、心身の鍛練と技術の向上を目指し、今日も弓を構えます。



環霧島探訪

— かんきりしたたんぼう —

Vol.5

今月は、湧水を守る活動を続ける小林市の清水洋一さんを紹介します。

◎問い合わせ 小林市総務課 ☎0984-2310220



湧水インストラクター
清水 洋一さん

清 水洋一さん65歳。湧水インストラクターとして市内の湧水地を調査し、その保全に努めています。

「私の苗字は『清水』。だから水を調べることに使命感のようなものを感じたんです」と笑顔でその思いを語ってくれました。

調査を始めたのは50歳のとき。10年かけて旧小林市内の70数箇所の湧水地を発見しました。見つからずに、山の中を歩き続けたこともしばしば。しかし、「特に苦勞はありません。私の活動が水を守ることに貢献できれば」と思いを話す清水さん。

しかし、調査を始めた頃と比べると、湧水地から湧き出す水は減少傾向にあるそうです。夏になると水が湧き出していた湧

水地で一昨年、その気配がなく、結局、水が湧き出ることはありませんでした。前年の降水量が少なかったためとも考えられましたが、その原因は分かりません。同じ現象が起きた湧水地がもう1カ所あり、湧水が限りある資源であることを痛感した出来事でした。（現在は湧き出しています）

昨年7月、小林市は水資源保全条例を制定。清水さんは「湧水は小林市の大きな魅力。保全には、ありのままの自然を残すことが大切です。条例の制定を機会に、水が限りある資源であることを知ってもらえれば」と話します。

現在は、小中学校から講師として招かれ、子どもたちにその思いを伝える活動も行っている清水さん。その温かい眼差しは、これからも小林市の湧水を見守り続けます。



盆地生まれの
元気をいただきます
おやつにもなる一品

※1個80キロカロリー、塩分0.7g

サツマ芋のがね



●材料 (約15個)

サツマ芋…150g ゴボウ…40g ニンジン…40g
卵…1個 小麦粉…約80g 揚げ油…適量
④〔塩…小さじ1/3 (2g) 砂糖…大さじ1 (9g)〕

●下準備

サツマ芋…太めの千切りにして水にさらす
ゴボウ…さがきにしてお水にさらす
ニンジン…さがきにする

●作り方

①切った野菜に④を混ぜ合わせ、水分が出るまで置いておく
②①に卵と小麦粉を混ぜ合わせる
③しゃもじなどで適度な量を取り、中温の油でゆっくり揚げる

サ

ツマ芋には、コレステロールを抑制する食物繊維や高血圧に効果があるカリウムが多く含まれています。また、芋類に含まれるビタミンCは加熱しても溶けだしにくいことが特徴です。

ワン!ポイント

野菜の切り方や太さを変えたり、豆腐やいりこ、ごま、みそなどを入れたりしていろいろな味や食感が楽しめます。

◎問い合わせ

健康課 ☎2312765

